

ガーリック + 通信



第15号 2010. 9. 30 発行

みんなのくらしと放射線展

in 大阪 扇町キッズパーク 行ってきました！！

8月19日(木)～22日(日)に扇町キッズパーク 1階アトリウムで開催されました「第27回 みんなのくらしと放射線展」に8月20日(金) 市川・小林・千葉・飯塚の4人が行ってきました。会場で北海道教育大学の鶴飼先生と合流し、大阪府立大学の古田先生に案内していただきました。

ステージ上での様々なイベントをはじめ、「放射線実験コーナー」では「放射線測定体験コーナー」などもあり、また「くらしの中の放射線」として工業利用コーナー・農業利用コーナー・医療利用コーナー・発電利用コーナーがありました。

写真と見学をした感想を掲載いたしましたのでご覧ください。

また、8月27日(土)と8月28日(日)に千葉市科学館「きぼーる」で開催されました「科学技術カフェ2010」で今回24のブースが参加し、その中の原子力産業協会ブースでは円卓会議の会員でもある原子力産業協会の坂上さんたちが昨年に引き続き、「芽止めじゃが」を来場者の方に配布するというので、見学&お手伝いに行ってきました。写真をご覧ください。



古田先生と鶴飼先生と一緒に記念撮影



キッズパーク内の様子



ステージ上ではおもしろ実験ショー「音でおととつと」



放射線測定器ベータちゃんを使って昆布やカリ肥料、岩石など身の回りの物が出す放射線を実感できるコーナー



自分の身体からも放射線が出ています。ただし、周囲の放射線も拾っているとか。



「くらしの中の放射線」農園コーナー



「くらしの中の放射線」工場コーナー



見学者に説明をする大阪府立大学の学生さん



加熱殺菌・照射殺菌・未処理の香辛料



照射で芽止めされたじゃがいもと未処理のじゃがいも



最後にみんなで記念撮影



放射線展の見学をして (千葉 記)

大阪府立大学の古田雅一先生のご担当のブースは、食品照射についてでした。私にとって目新しいのは、乾燥して細かくしてあるペパーミントのサンプルの比較でした。加熱殺菌・照射殺菌・未処理の3種です。照射殺菌は加熱殺菌より緑色が美しかったし、サンプルのふたを開けて香りをかぐと、照射殺菌はどれよりも強くミントらしい香りがしました。改めて香辛料・ハーブといったものに照射をする良さを感じました。

「これがゴールド20世紀」と分かって、照射による新品種であるナシを食べてみたいと願っていたら、一つ頂けて、うれしかったです。さっそく家族と食べました。味は、特にどうこうはないですが、「病気に強い新品種」ということで、良い技術と思います。

もっとも、「放射線の作用で(遺伝子を少し変えて)新品種を作ってもOKだが、遺伝子組換えで病気に強い品種を作るのはダメ」というのは、理屈に合わない矛盾を感じます。農学系の大学院生である娘が「放射線で新品種を作るなんて、気が遠くなるほど大変」となしをおいしそうに頂きながら申しました。私もそう思います。

じゃがいもは実物—未処理でたくさん芽が出ているものと照射したきれいなもの—も置いてあり、何組かの親子連れなどに学生さんたちが説明していました。子どもも大人も、説明者の方をじっと見て、黙ってまじめに説明を聞いていました。

「黙って聞く」のは、私くらいの年代にとっては当然過ぎるでしょうが、近年、学校教育において、そのこと自体困難なことが多いので、教員である私はそういう姿に感動します。

30~40歳代始めと思われるお母さんたち(金曜なので、父より母が多いのでは?)は、難しそうな表情で説明を聞いていました。あまり知らないことについて、次から次へと説明を聞いたら、いつも使っていない脳の部分を使うという感じで、抗議があるわけでもなく、「なんだか難しい話だ」という難しい表情をなさるのは、無理ないと存じます。

残念でしたのは、体格から推察して、小学校高学年の子が少ないことです。きっと塾通いで忙しくて、来られないのでしょう。こういうイベントに連れて来てもらえるような、ある程度恵まれたご家庭の小学生は、中学受験するのでしょうかから、来られないのでは?と推察いたします。

本当は、小学校高学年くらいで「科学って楽しい」と理屈もある程度含めて、工作などを伴う実験から感じると、きっと効果的なのでしょう。これについて論文とかは読んでおらず、体験から推測しているとはいえ、発達段階を考えると、悲しくなります。

とにかく、私としては暑い夏に、大阪まで出かけた甲斐がある、収穫の多いイベントでした。



気温 36 度の猛暑の大阪へ (市川 記)

会場となった扇町キッズパークは、子ども用「科学未来館」というようなコンセプトのもので、大阪駅に近い関西テレビの建物の中にありました。その1階のアトリウム部分を使って「展示」やステージでのイベント等が行われていました。

到着してすぐに私たちは、イベントステージで、放射線育種のお話を聞きました。女性科学者が大きな声でゆっくりお話されていて、子どもにもわかりやすく、なるべく難しい言葉を使わないように配慮なさっていると感ずることができました。資料はスライドを使っていましたが、会場の大きさに比べると、液晶テレビの画面が小さくて、見辛いという印象を持ちました。スライドの中身をもっとシンプルにする等の工夫が必要かと…余計な老婆心を募らせてしまいました。

大阪府立大学の古田先生の案内で各展示コーナーを見学しました。「工業利用コーナー」「医療利用コーナー」「発電利用コーナー」「農業利用コーナー」がありました。「農業利用コーナー」では、ペーパーミントについて、加熱殺菌処理・照射殺菌処理・未処理の3つの比較ができましたのが印象に残りました。家庭用のスパイスの瓶位の大きさの透明なガラス瓶の中に入れてあり、外観と匂いを確認することができました。見た目だけでも照射殺菌は加熱殺菌より緑色が未処理と同じようにきれいでした。においをかぐと、加熱殺菌よりも照射殺菌の方がフレッシュな良い香りだと思いました。

1メートル四方は有りそうな大きな霧箱の中の、アルファ線、ベータ線、宇宙線の軌跡を面白く飽きずに眺めながら、放射線の神秘を感じました。また、放射線を測る機械がたくさん置いてあり、見学者が使えるコーナーもありました。放射線は、暮らしの中で色々と利用されていて、私たちは知らないうちにその恩恵に与っているにもかかわらず、その実際をほとんど知らないという状況です。ましてや自分の体の中にも自然の中にも放射線があることすら普段は気が付いていないのです。

暮らしの中の放射線を意識させるこのようなイベントは、大きなインパクトは無くてもジワリジワリと放射線への理解を広げていく力になることでしょう。毎年開催することは大変かも知れませんが、必要なことだろうと思いました。工業利用をしている事業者からの積極的な説明がほとんどなくちょっと物足りなさも感じましたが、夏休みという開催時期や、会場がテレビ局という強み、学生の手を借りられるという市民産学連携の機動力等、これからの私たちの活動にも応用できそうなものを感じました。

【みんなのくらしと放射線展について】

今回、第27回目の開催となりました「みんなのくらしと放射線展」ですが、27回続けてこられたことに驚きました。

昭和58年10月から旧大阪府立放射線中央研究所の有志によって始められ、その後大阪府立大学に事務局を置く「みんなのくらしと放射線」知識普及実行委員会(関係9団体で構成)の主催となりました。

会場は、百貨店内での開催も半数以上あり、入場者数も6回目以降は毎回2万人を超す盛況ぶりです。

また、25回開催を記念して、大阪公立大学共同出版会から同名の単行本「みんなのくらしと放射線」が出版されました。(飯塚 記)

『科学技術カフェ 2010』開催 千葉市科学館きぼーる 8月27日(土)~28日(日)



第2回目の開催、2日間で1,500人の来場者



「チーバくん」と坂上さん



原子力産業協会のブース



シェフでもチーバくんでもなく小林さんです。



「くるくるウランゲーム」ちょっと難しいけど頑張ってくれた小学生たち



すごろくゲーム「GEN-6」



「くるくるウランゲーム」は、原子力機構と東海村の住民の方々に作られました。「GEN-6」は、原子力学会の「学生連絡会」との協働で日本原子力学会青年連絡会が作ったすごろくゲーム。

これらのゲームは遊びながらエネルギーや地球環境問題、核燃料サイクルを学ぶことができます。

左の写真は、「科学技術カフェ」を企画した放射線医学総合研究所の中村秀仁博士(左から2人目)と手伝ってくださった学生の皆さんと記念撮影。

(飯塚 記)